

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24510388

研究課題名(和文) アフリカ女性の社会進出をめぐる政治力学の研究

研究課題名(英文) The Role of Traditional Leaders to Promote Women's Participation in African Societies

研究代表者

戸田 真紀子(TODA, Makiko)

京都女子大学・現代社会学部・教授

研究者番号：40248183

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：ケニアの旧北東州で女性の地位向上を促す政策決定に伝統的指導者がどのように影響を与えてきたかを明らかにすることが研究目的であった。他民族に比べてこの地域への公教育導入は遅く、その理由は一般に言われているようにソマリ人が教育に不熱心であったからではなく、長老達が何度も植民地政府に請願し学校開設に努力してきた歴史を明らかにできた。現在現地で政治的影響力をもつ人々へのインタビューを準備していたが、過激派の報復テロが続き調査は中断した。比較のためにルワンダで調査し、下院女性議員比率世界一の素地として、植民地化以前のルワンダ王国において女性が果たした政治的役割が大きかったという事実の影響を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to show the influence of traditional leaders for the women's participation in society in North Eastern Kenya. Because of the terrorist atrocity in this area, I have to stop my work temporarily. Instead I studied the history of Rwanda Kingdom and the traditionally important role of women. Now Rwanda is ranked first as to the women's ratio in the Lower House. They say this traditional women's role has affected gender relations in Rwanda.

研究分野：比較政治学

キーワード：女性の地位向上 慣習 アフリカ

## 1. 研究開始当初の背景

ケニアにおける「ジェンダーと政治」の研究は海外では盛んであるが(例えば、L. Thomas. 2003. *Politics of the Womb: Women, Reproduction, and the State in Kenya*. University of California Press.) 辺境の地である北東州のソマリ人社会を題材にしたものではない。日本においては申請者の研究だけといえる。

イスラームを信じ遊牧生活を送るソマリ人はケニアでは少数民族であるが、隣国にソマリ人の国ソマリアがあり、東アフリカでは一つの勢力を有しているため、研究価値は十分にある。

申請者は平成 12 年からジェンダーと慣習の問題についてケニア共和国旧北東州ガリッサ県で調査を続け、教育の力によって女性軽視の慣習が変わる事例を確認した。申請者の研究成果は北東州教育庁と現地 NGO の共同プロジェクト策定に貢献している。北東州は植民地時代から現在に至るまで開発から疎外された地域であり、教育分野においても、ケニア全体の初等教育就学率が 9 割を超えているのに対し、北東州では 3 割を超えた程度でしかなく、さらに男女格差が大きい(平成 23 年度現地調査による)。

ミレニアム開発目標や世界銀行の報告書を挙げるまでもなく、女子教育は本人のみならず次世代にとっても社会全体にとっても重要なものであるが、北東州のような地域の低い就学率を上げない限り、ミレニアム開発目標を達成することはできない。低い就学率の原因は貧困だけではなく、「慣習」の影響が大きい。教育の力で慣習は徐々に変化しているが、短期的に政策によって状況を変えるためには、北東州の政治力学を理解することが必要不可欠である。

つまり、イスラームの宗教指導者、ソマリ人の氏族(クラン)の伝統的指導者がどのような考えを持ち、どのような手段で政策決定過程に関与するのかを明らかにすることが、女性の地位向上という「慣習への挑戦」を成功させるには、必要不可欠なのである。

## 2. 研究の目的

ケニアで最も貧しい北東州において、イスラーム指導者やソマリ人のチーフら伝統的指導者たちは、開発の重要性は認めても、女性のエンパワメントを推進する政策を後押ししてこなかった。女性の地位向上を達成するには、伝統的指導者たちの協力が不可欠である。FGM 廃絶など女性の地位向上に関わる政策決定過程に、伝統的指導者は、どのように影響を与えてきたのか、そして、女性指導者たちはどのように対抗してきたのか。北東州の政治力学を調査することは今後の政

策を効果的に実行する上で必要であり、伝統的指導者の力が強い他のアフリカ諸国における慣習の変更と女性の地位向上の方策にも応用できる重要な研究であるといえる。

## 3. 研究の方法

当初の研究予定は以下の通りである。調査はケニア共和国首都ナイロビと北東州ガリッサ県において行なう。現地では、海外共同研究者が伝統社会、宗教界、及び公的機関との間に構築したネットワークを利用して調査を行なう。平成 24 年度は、首都ナイロビ及びガリッサにおいて、インタビュー調査を行ない、ガリッサにおける政策決定過程に影響力をもつ人々の相関図を作ると共に、彼(彼女)たちが、女性のエンパワメントについて、どのような立場でいるのかも明らかにする。平成 25 年度以降は、ガリッサにおいて、女性のエンパワメントを促進する政策を推進するためには、どのような政治的配慮が必要なのかをまとめ、学会報告、論文発表によって、アフリカ及び他地域の研究者と意見交換を行ない、さらなる研究の発展を推し進める。さらには、研究結果を英語でもまとめ、現地に成果を還元することを忘れてはならない。

## 4. 研究成果

本研究の準備のため平成 23 年 8 月に現地に行き、北東州(当時)教育事務所長や幹部職員、女子高校の校長ら教育関係者と面談し、また研究協力を依頼している長老にも、他の長老へのインタビューを依頼して帰国した。帰国後も、教育事務所と長老との連絡を密にしていたが、10 月にケニア軍がソマリアに侵攻し、ソマリアの過激派アル・シャバブによる報復テロが北東州主要都市で起こり、その後も状況は悪化の一途を辿り、インタビューをお願いした方々がスパイとして過激派の標的にされかねない状況となってしまった。

平成 24 年の現地調査は、北東州(当時)州都ガリッサにおける政策決定過程に影響力をもつ人々の相関図を作成することを目的としていたが、滞在予定のホテル付近でも手榴弾によるテロで死者が出る状況であったため、渡航は断念した。その代わりに、北東州での公教育の発展の歴史についての貴重な文献を入手し、その研究により、独立以前から現在までの有力者の名前、人物像を明らかにすることができた。

遊牧民であるソマリ人は教育に熱心でないという評価が一般的であるが、上記の資料からは、ケニアの主要民族と対抗するためにも、公教育の普及に努力した長老たちの奮闘が明らかになった。

平成 25 年は、この人物相関図をもとに、

現地で長老や宗教指導者にインタビューを実施する予定であったが、治安はますます悪化し、インタビューにより相手方の生命を危険に晒す恐れがあったため、現地入りは断念した。

旧北東州との比較研究として、規模こそ違うが、同じようにジェノサイドを経験した2つの地域(ルワンダとボスニア・ヘルツェゴビナ)で調査を行った。下院の女性議員割合が世界一であるルワンダでは、主に農村部でインタビューを行い、ルワンダの慣習における男女の役割分担などの情報を集めた。また、ジェノサイド後に成立したルワンダ政府がクオータ制導入に至った経緯なども調査した。ボスニアでは北東州と同じムスリムの居住地域を訪れたが、イスラームの教えに対する女性の姿勢も地位も、北東州との比較が可能なレベルではなかった。

最終年度である平成 26 年度、ガリッサは渡航禁止地域となり、本年 4 月 2 日にガリッサ郡で起きたアル・シャバブによる大学襲撃事件でも明らかのように、非ムスリムであり、米国に味方しているとみなされている日本人が調査活動を行える場所ではもはやなくなってしまった。10 年以上かけて培った現地との信頼関係を今後生かすことができないのは、とても残念なことである。

平成 26 年 8 月は、前年に引き続くルワンダで調査を行い、下院の女性議員比率が世界一となった理由として、現政権の担い手がクオータ制を早くに導入したウガンダで訓練を受けていたことや、ジェノサイド後に女性が共同体再建を担わざるをえなかった事情に加えて、植民地化以前のルワンダ王国において女性が果たした政治的役割が大きかったという事実が素地としてあることが、現地の歴史家にインタビューすることで明らかになった。女性の役割を認めていた伝統的な制度は、宗主国ベルギーと教会によって解体されている。

本研究のそもそもの目的は、ケニアで最も貧しいとされた旧北東州において、女性の地位向上に関わる政策決定に、伝統的指導者がどのように影響を与えてきたかを明らかにすることであった。地元 NGO の数十年の努力によって、旧北東州では FGM に反対する宗教指導者が現れるなどの変化はみられるが、同じ牧畜民同士を比較しても、ルワンダとガリッサでは、女性の地位について、植民地化以前から大きな違いが存在している。

研究成果としては、数度の学会報告と、論文、単著の出版がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 3 件)

戸田真紀子「アフリカから見るジェンダーと政治学」日本政治学会 2014 年 10 月 12 日 早稲田大学

戸田真紀子「アフリカの貧困化と国際社会」日本アフリカ学会 2013 年 5 月 26 日 東京大学

戸田真紀子「女子高襲撃事件とアフリカの角を巡る国際政治」日本国際政治学会 2012 年 10 月 20 日 名古屋国際会議場

〔図書〕(計 4 件)

戸田真紀子『貧困、紛争、ジェンダー』晃洋書房 2014 年

吉川元・六鹿茂夫他編『グローバル・ガヴァナンス論』法律文化社 2014 年 130 - 141 頁

戸田真紀子『アフリカと政治 紛争と貧困とジェンダー 改訂版』2013 年

月村太郎編『地域紛争の構図』晃洋書房 2013 年 75-96 頁

〔産業財産権〕0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

戸田 真紀子 (TODA, Makiko)  
京都女子大学・現代社会学部・教授  
研究者番号：40248183

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：